

# 部会プレゼン資料イメージ

子育て・教育・福祉部会資料

## 施策1-4-1 総合的なケアの推進

健康福祉局  
平成29年5月

### 施策の概要

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

**基本政策(1層)** 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

**政策(2層)** 誰もが安心して暮らせる地域のつながり・しくみをつくる

**施策(3層)** 総合的なケアの推進

**直接目標** 多様な主体による地域での支え合いのしくみをつくる

#### 主な事務事業

地域包括ケアシステム推進事業	災害救助その他援護事業
介護予防事業	民生委員児童委員活動育成等事業
認知症高齢者対策事業	自殺対策・メンタルヘルス普及啓発事業
在宅医療連携推進事業	
福祉センター再編整備事業	
地域見守りネットワーク事業	

# 実施計画に位置付けた成果指標

※内容はタミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

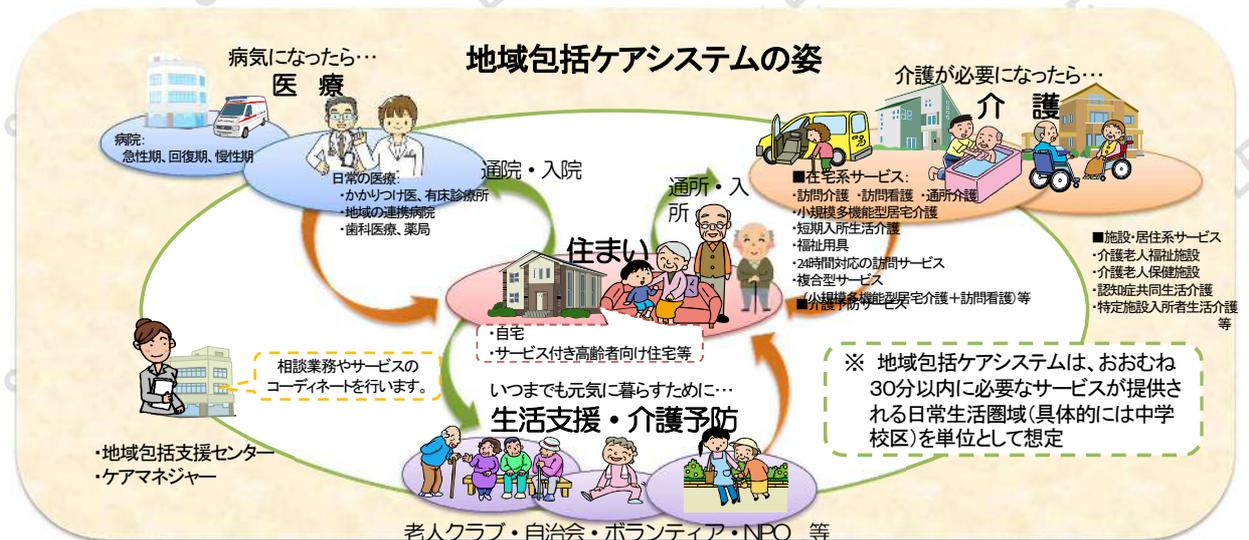
成果指標① 高齢者のうち、介護を必要とする人(要介護・要支援認定者)の割合				
算出方法	第2号被保険者を除く、要介護・要支援認定者数(46,026人)／市内高齢者数(269,609人)×100(%) (健康福祉局調べ)			
指標の考え方	セルフケア意識の醸成や、若い頃からの健康づくり、高齢者の生きがい・健康づくり、介護予防の取組等を推進し、介護を必要とする高齢者の増加を抑制することが重要であるため、その指標を設定することで取組の成果を測ることができる。			
指標の目標値	17.07%(H26)	18.4%(H29)	20.5%(H32)	22.86%(H37)
目標値の考え方	取組の実施により、第6期介護保険事業計画の推計値を下回ることを目標とする。			
成果指標② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度				
算出方法	市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「地域包括ケアシステムの内容を知っており、具体的にどのように行動したらよいか分かっている」と答えた人の割合(市民アンケート)			
指標の考え方	多様な主体による地域での支え合いのしくみをつくるためには、地域において、将来のあるべき姿についての合意形成がなされるとともに、それを実現するための地域包括ケアシステムの必要性や考え方が地域全体で共有されることが必要であり、「理解度」を問うことで、取組の成果を測ることができる。※ここで言う「理解度」とは、地域包括ケアシステムの内容を知っていることに加え、具体的にどのように行動したらよいか分かっていることとしている。			
指標の目標値	10.1%(H27)	16.0%(H29)	32.0%(H33)	42.0%(H37)
目標値の考え方	H24に実施した第3回地域福祉実態調査において、H15に設置された「保健福祉センター」の認知度が、70%となっている。「地域包括ケアシステム」についても、今後の取組により、10年後にこれと同程度の一般化(認知度70%)をめざしつつ、そのうち半数以上(6割)の市民が理解している(何をすべきかまで知っている)状況が、地域包括ケアシステムを持続可能なしくみとしていくために必要と考え、10年後の目標値を42%とする。			

# 地域包括ケアシステムとは

※内容はタミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 2025年(平成37年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。
- 地域包括ケアシステムは、市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。(厚生労働省HP資料より)

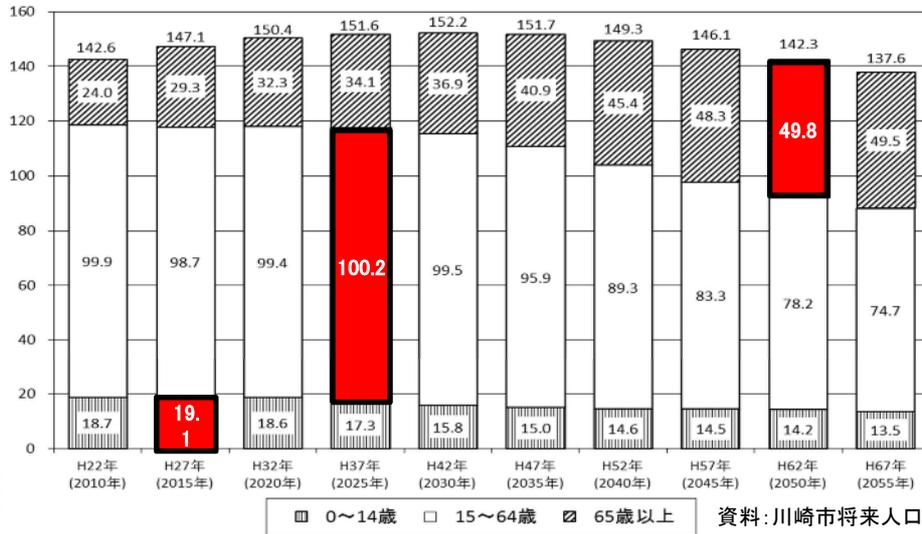


# 川崎市における少子高齢化の進展

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本市の将来人口推計では、2030年まで人口が増加するものの、年少人口のピークは2015年、生産年齢人口のピークは2025年と推計されており、ピーク後は急速に減少していくと見込まれています。
- また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの時、ついに川崎市も超高齢化社会に突入して、人口のピークとなる2030年を経て、2055年には現役世代約1.5人で1人の高齢者を支える状況となることを見込まれます。



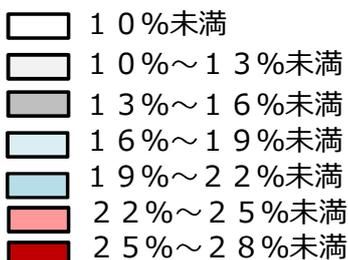
# 川崎市における地域別の高齢化率の状況

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 若い世代の多い武蔵小杉のような地域もあれば、高齢化率が40%を超える団地がある地域など、地域ごとに人口や高齢化率が異なり、さらには、地理的な状況や歴史、住民の考え方なども異なり、地域の実情に応じた取組の推進が求められています。

## 65歳以上の人口割合



# 川崎市の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 今後迎える超高齢社会を見据え、地域の実情にあった川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムを構築していくことが重要であり、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現に向け、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」を平成27年3月に策定しました。

## 「地域包括ケアシステム推進ビジョン」

～ 一生住み続けたい最幸のまち・川崎をめざして～

### 【基本理念】

川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築による誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現



### 基本的な5つの視点

#### 1 【意識の醸成と参加・活動の促進】

地域における「ケア」への理解の共有とセルフケア意識の醸成

#### 2 【住まいと住まい方】

安心して暮らせる「住まいと住まい方」の実現

#### 3 【多様な主体の活躍】

多様な主体の活躍による、よりよいケアの実現

#### 4 【一体的なケアの提供】

多職種が連携した一体的なケアの提供による、自立した生活と尊厳の保持の実現

#### 5 【地域マネジメント】

地域全体における目標の共有と地域包括ケアをマネジメントするための仕組みの構築

## 「地域包括ケアシステム推進ビジョン」のロードマップ

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「地域包括ケアシステム推進ビジョン」を効果的に推進するため、次のとおり段階を分けて、時代や社会状況に応じて、地域包括ケアシステムをさらに進化させた取組を進めていきます。

### フェーズ1 (H30年まで)

- 市域における、行政及び事業者、関係団体・機関などの専門組織は、システムの構築に必要な資源・体制・手法等について検討し明確化し、システム構築に向けた土台づくりを行う。

### フェーズ2 (H37年まで)

- 地域内の多様な主体が、それぞれの役割に応じた具体的な行動が行えるようになることで、地域包括ケアシステムの構築を目指す。

### フェーズ3

- 時代や社会状況に応じて、地域包括ケアシステムをさらに進化させた取組を進めていく

# 「自助・互助・共助・公助」を意識した取組の推進

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 地域包括ケアシステムの推進には、「自助・互助・共助・公助」という4つの区分が重要となります。

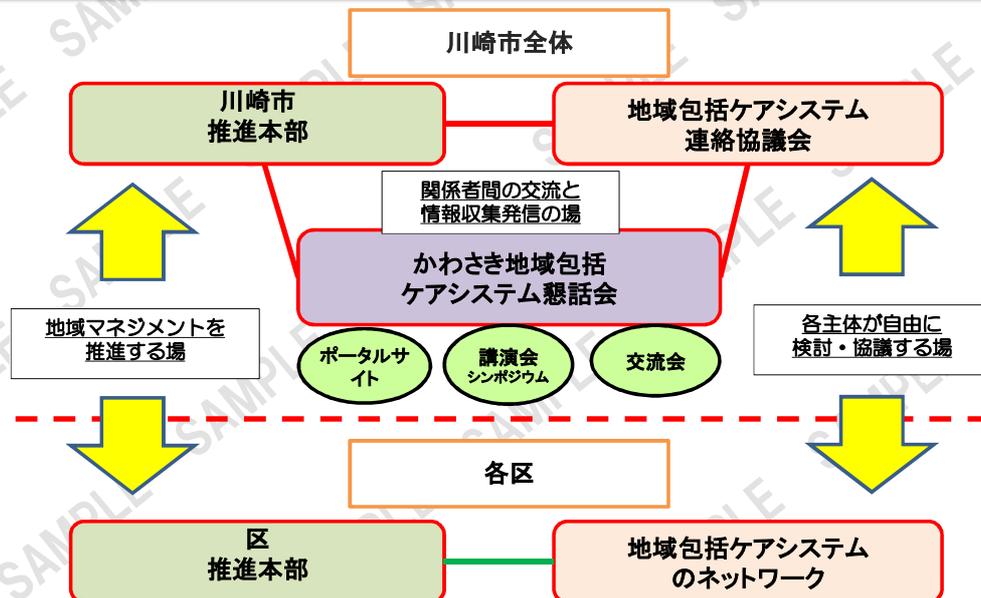


# 地域包括ケアシステムの推進体制

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 市長を本部長とした「推進本部」や、医療や福祉の関係者、地域団体などから構成された「連絡協議会」を設け、地域包括ケアシステムの推進に努めています。また、広く、地域に地域包括ケアシステムの考え方を広めていくため、「懇話会」と称して、ポータルサイトの開設や市民向けの講演会などを実施しています。

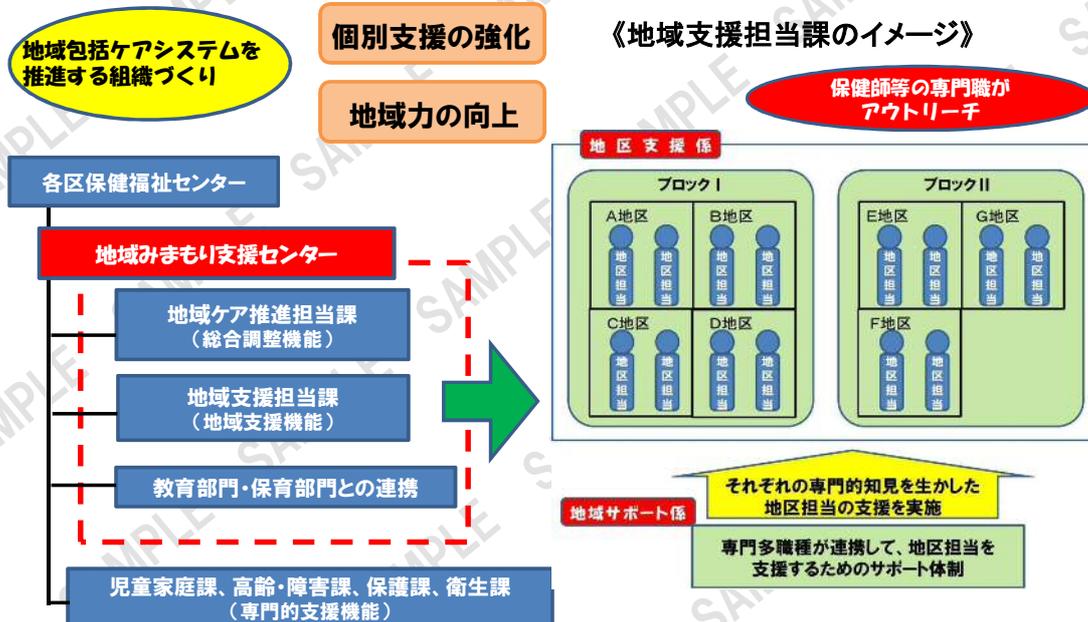


# 各区に地域みまもり支援センターを設置

※内容はタミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 総合調整機能、専門的支援機能、地域支援機能からなる3つの機能の連携により、「個別支援の強化」と「地域力の向上」を図り、地域包括ケアシステムを推進する組織体制となるよう、平成28年4月、各区保健福祉センター内に、**地域みまもり支援センター**を設置しました。

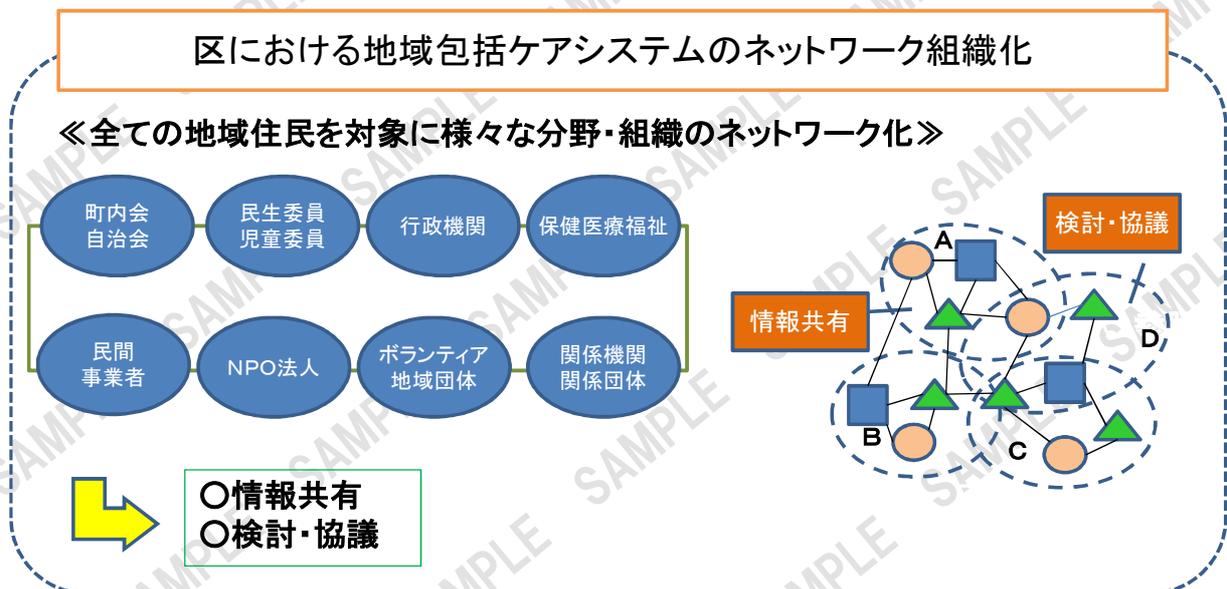


# 地域みまもり支援センターにおける活動

※内容はタミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 地域みまもり支援センターでは、既存の様々な協議体を活用してネットワーク化を図り、それぞれの特性・特色を活かして、「**情報共有**」や「**検討・協議**」を行っています。



## 成果指標②の達成状況

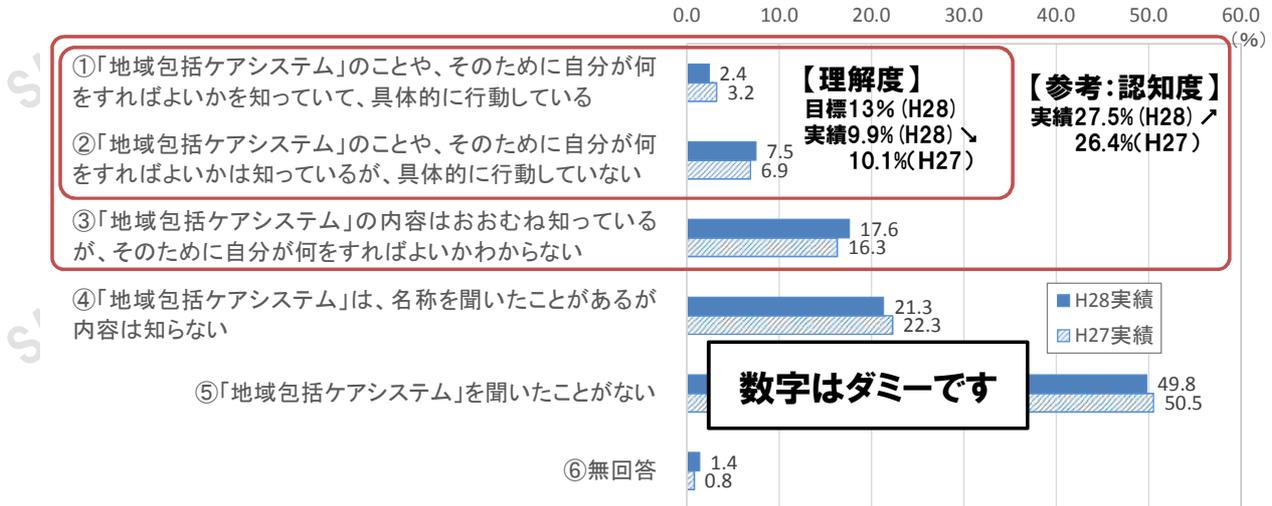
※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

### 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「地域包括ケアシステムの内容を知っており、具体的にどのように行動したらよいか分かっている」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、目標値には届かず、前年度の実績から0.2%下がりましたが、認知度については、前年度から0.9%上昇しました。

	H28
目標	13%
実績	9.9%
現状値	10.1%(H27)



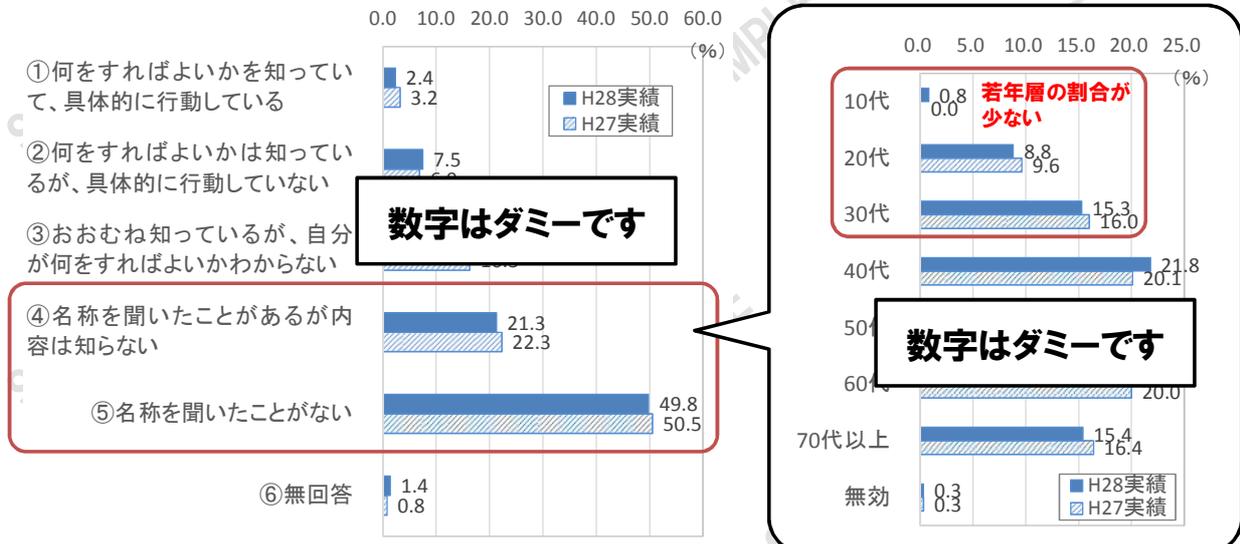
## 成果指標②の成果分析

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

### 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 地域包括ケアシステムを認知していない回答者の年代を分析してみると、10代~30代の年代の割合が少なくなっています。また、平成27年度の実績と比較した場合も、若年層の認知度が下がっているため、広報等の手法も含めて、若い世代への対応について検討していく必要があります。



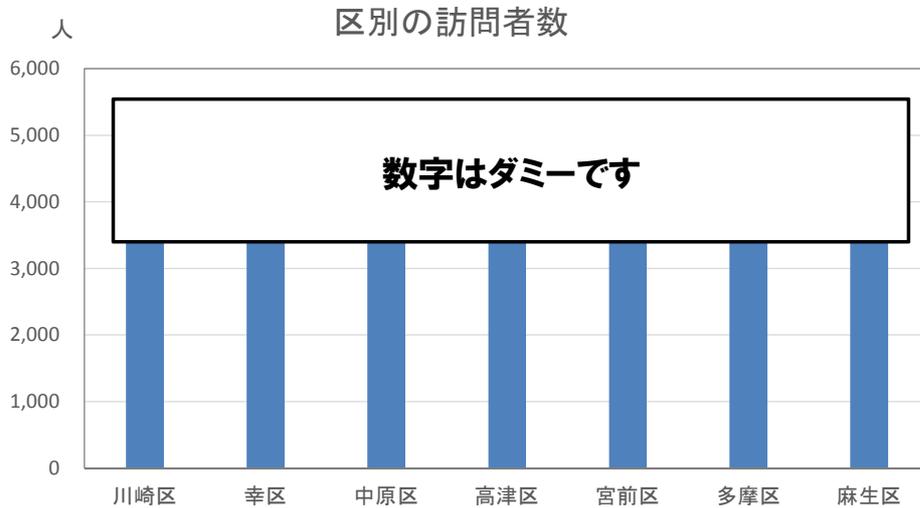
# その他の事業発現効果

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

## 各区の地域みまもり支援センターによる説明者数

- 平成28年4月に各区保健福祉センター内に設置した、『地域みまもり支援センター』において、平成28年度中に町内会や関係団体等への訪問や講演会などにより、地域包括ケアシステムに関する説明を行い、その総数が約44,000人となり、想定していたよりも多くの方に普及啓発を図ることができました。



# 施策の進捗状況

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

## 施策の進捗状況

**B 一定の進捗がある**(目標達成に向けて進捗している)

### 理由

- ① 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策の目標達成に向けて一定の進捗がありました。
- ② ○○指標については、○○の影響により目標達成に至りませんでした。○○でそれを補う効果が出ています。
- ③ 成果指標以外の効果について、○○○○○○○○○○により、地域包括ケアシステムについて認知している人が、徐々に増えています。
- ④ ○○○○○○.....  
.....  
.....。

【施策の進捗状況区分】 A 順調に推移(目標達成している)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)  
C 進捗は遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

# 施策の今後の方向性

※内容はダミーです

概要 背景 取組 成果 まとめ

## 今後の方向性

### Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

#### 理由

- ① 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策を構成している事務事業の取組が順調に推移したことによるものと考えます。
- ② 一方、目標未達成の〇〇指標に関連する部分については、今の取組の〇〇な部分など、課題があることから、取組の改善を図ります。
- ③ また、新たに〇〇の課題が発生していることから、新たな課題への対応について検討していく必要があります。
- ④ 〇〇〇〇〇〇.....  
.....。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)  
Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!  
川崎市

施策1-4-1 総合的なケアの推進



17



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市